

# 新しいPR動画ができました



**山頭火が見た  
美しき志布志の自然**

昭和5年秋、志布志市を訪れ、二日間で四十六の句を詠んだ俳人種田山頭火。山頭火はこの二日間、志布志市のどこを訪れ、どんな想いで句を詠んだのだろうか。



光と陰の織りなす、晩秋の志布志を圧倒的な映像美の世界観で切り取り、際立った志布志の自然の景色の美しさを見る人に伝え、動画を見た後に山頭火の足取りを追って志布志に来たくなる、そんなPR動画です。

山中の名も無い湧水源やシラス層のある風景など、今まで紹介されていなかった、隠れた志布志の自然をハイクオリティな映像で紹介するとともに、山頭火という著名人の足跡として紹介しています。この動画で、志布志市の美しい自然を改めて確認してみませんか？



写真上：「〜いちごのかくれんぼ〜志布志びより」甘酸っぱいイチゴが白あんと相性ぴったり。  
写真下：開発したツーリズム協議会の皆さん。

**ブランド推進協議会から新しい特産品**

志布志市、志ツーリズム協議会が、地元食材を使った特産品の独自開発を行い、「志」を込めたおまんじゅう「〜いちごのかくれんぼ〜志布志びより」が完成しました。

開発のきっかけは、ツーリズム協議会の会員が、農山漁村での各種体験の受入れを行いながら、食を通じた活動のPRができないかというものでした。

昨年のお釈迦まつりでの3000個の試験販売を皮切りに、志布志びよりのPR販売等を行いながら多くの方の意見を聞き、改良を重ねていきました。(販売累計1184個)

また、各分野の専門家を交えてのブランド推進協議会グループ会議では、販売に向けたデザインやパッケージ等について、プロの目から見た様々な助言をいただくことができました。

会員の皆さんは、志布志市のオフィシャルな「志」のお菓子にしていきたいと、更なる研究に余念がありません。

各種イベント等で「〜いちごのかくれんぼ〜志布志びより」を見かけたなら、ぜひ一度ご賞味ください。

志布志市が取り組む「ブランドづくり」を紹介します！

**問** 本庁 企画政策課 地方創生推進室（シンガーデン事務局）TEL: 474-1111（内線 254）

## 『志布志の文化的価値～日本遺産登録の期待と展望～』



コラムニスト：ふじやま学校代表取締役 坂本貴弘 神奈川県出身。志布志ブランド推進アドバイザーとしてブランド作りに携わる。東京大学卒業。



### こころざしコラム 第34回

志布志の本質的な価値や発展の可能性をテーマとする本コラム、今回は「志布志の文化的価値」について書かせていただきます。

ただいま、志布志の麓地区が鹿児島県初の「日本遺産」へ登録される可能性がある文化財群として着目されており、市内外の有識者による意見交換会や登録実現に向けた検討が行われています。

ここで、「日本遺産」とは、「地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを『日本遺産 (Japan Heritage)』として文化庁が認定するもの」で「魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的」として平成27年度から始まったものです。(平成27年度18件、平成28年度19件認定)

文化財の登録や指定については、「世界遺産」や「指定文化財」といったものが、これまでもこ



宝満寺公園

ざいですが、「世界遺産」、「指定文化財」はいずれも登録・指定される文化財（文化遺産）の価値付けによる保護を担保することを目的とするものであったのに対し、「日本遺産」は、「地域に点在する遺産を「面」として活用し、発信することで、地域活性化を図ること」を主な目的としている点に違いがあるとされています。※1

このように、地域活性化を図ることを目的とする「日本遺産」に鹿児島県初の登録がされること

は、志布志市の活性化やそのストーリーを活用した物産・観光振興の面でもとても大きな価値がありチャンスであると思います。

なお、大慈寺から志布志城跡・宝満寺跡まで一体に連なる志布志麓地区の文化財群は、100以上あるとされる鹿児島「麓」地域（薩摩藩が外城制度により形成した武家屋敷群）※2の中でも、特に歴史が古く貴重なものであるため、日本遺産登録に向けた市内一丸となった具体的な取組（歴史的背景を踏まえたストーリーの創発・発信、文化財の保全・保護等）を示していくことで、日本遺産へ認定される可能性は極めて高いとも言われています。

このチャンスを生かし、志布志の歴史・文化的価値が内外において高く認識され、いつそこの地域活性化や発展へとつながっていくことをとても期待いたします。

- ※1：「文化庁」ホームページ 情報より
- ※2：「鹿児島県の歴史」山川出版社（1973年）